

風知草

山田孝男

ドイツの「脱原発」はポ
イント・オブ・ノー・リタ
ーン(帰還不能点)を越え
た。後戻りはない。

「なぜ大失敗だぞ？」

「電気代が上がり、エ
ネルギー転換は進まない
と書いてあるのです。」

「再生可能エネルギーが
増えて大企業の電気代は前
より安くなっている。一般

脱原発 ドイツは不退転

する機会を得た。

左派系紙「ターゲスツァ
イトゥング」の経済環境部
長に「日本でドイツのエネ
ルギー転換はどう受け止め
られているか」と聞かれる
場面があった。

私は、カバンに忍ばせて
いた日本の雑誌記事のコピ
ーを見せた。「ドイツ『脱
原発』は大失敗」という見
出しの月刊誌と週刊誌。た
ちまち反問された。

仕組みが悪いという議論に
はならんでしよう」
彼はこう続けた。

「エネルギー転換に携わ
る者には『誰もやったこと
がないけど、必要なことは
やらねば』という理解があ
る。ドイツは豊かな国で技
術力もあります。だからこ
そ他国に先んじて変わらな
ければならぬという義務感
がある。電気代を論じる前

に、そういうコンセンサス
があることを理解する必要
があると思います」

◇

連邦経済エネルギー省次
官、産業連盟や電力大手の
専門家も取材したが、「実
は原発に戻りたい」の気配
はどこにもなかった。保守
系紙が「原発回帰」を鼓吹
することもない。
原典はチェルノブイリ原

発事故(1986年)。以
後、原発運動が高揚。2
000年、中道左派連立政
権が「脱原発」を決めたも
の、10年暮れ、メルケル
首相の保守中道連立政権が
原発延命へ転換。
その後、福島事故が
起き、メルケル主導で「脱
原発」へ戻った。

それを、物理学者でもあ
るメルケルの英断と考える
か、政権維持を優先した権
力者の本能と見るかは評者
の価値観による。
◇
ドイツは風力、バイオマ
ス発電が伸びているが、送
電線拡充、バックアップの
火力発電に課題を残し、議
論が続く。その挑戦を美化
する必要はないが、日本国
内の、原発推進派の思惑が
生む冷笑に惑わされるべき
でもない。(敬称略)



題字・絵 五十嵐晃

欧州は一部を除き、互い
に送電線で電力を融通し合
っている。現在、ドイツを
含む北大西洋条約機構(N
ATO)諸国は核戦争を意
識してはいない。

他方、日本は島国で、周
囲の核保有国との間に緊張
がある。「原発を守り、潜
在的核保有能力を」という
主張は現実には根ざしている

毎週月曜日に掲載

2015.2.16